

現代社会と家族

選 択

開講年次：1年次後期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：日常、当たり前の存在のように考えられがちな家族は、時代により、社会により、また個人により、その意味や位置付けが異なります。特に現代社会では社会構造の複雑化やグローバル化等が進んでおり、家族のあり方や個人と家族のかかわりも大きく変化しています。この講義は、現代社会と家族・地域社会の関係について学び、日本の家族が抱える課題について理解し、家族に対する興味・関心を養うことを目指しています。特に家族の機能では子育て・介護について、地域社会の重要性や役割について学びます。

■**到達目標**：①家族に対する関心を養う
②家族の変化を統計的に捉える方法を学ぶ
③家族と地域社会の関係や日本の家族が抱える課題を理解する

■**担当教員**：

原 俊彦

■**授業計画・内容**：

第1～2回 家族って何だろう？：家族を巡る話題／家族のイメージ／家族の定義
第3～4回 日本の家族：家族の類型／いわゆる「核家族」って昔からあったのか？
第5～7回 専業主婦って、何だろう？／統計的に捉える／家事と主婦の誕生
第8～10回 ライフコース：周期からステージへ／多様化と延伸／家族の発達課題
第11～14回 家族の機能 生殖／子育て／介護／地域社会と家族
第15回 家族の未来を考える：家族から個人へ？

■**教科書**：特にありません。

■**参考文献**：参考図書：講義中に随時紹介します。

『21世紀家族へ—家族の戦後体制の見かた 超えかた』／落合恵美子（有斐閣選書）1,785円

『新しい家族社会学』／森岡清美・望月菫（培風館）1,750円

『ナーシング・グラフィカ7：社会・生活論—社会と生活者の健康』／平野かよ子編（2004）MCメディア出版、2,200円

『ヨーロッパの家族史』 姫岡とし子（山川出版社）729円

『縮減する社会—人口減退とその帰結』 フランツ・グザファー・カウフマン、原俊彦・魚住明代（訳）原書房 2,800円

■**成績評価基準と方法**：講義回数の6回以上欠席した場合は、不合格となるので注意。成績は授業中に出す課題（ポータルシステムによる）の合計点（100満点換算）で、上記の到達目標の達成度を評価します。なお受講態度が悪い場合は減点の対象とします。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート					
授業態度	○			授業中の居眠り、おしゃべり、遅刻などは減点の対象とします。	
発表					
課題・作品	◎	◎	◎	課題(5回)の合計点(100満点換算)	100
出席	○			6回以上欠席した場合は、不合格	
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：家族社会学（2年次の看護専門科目）

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：この講義は、自分自身で考え、授業中に質問・発言するなど積極的に参加しないと面白くならない。また看護の学生で2年次に専門科目の「家族社会学」を履修する者は、この科目を履修しておくことが望ましい。